

## 布隆吉爾城

到る。以上九河は、何れも南より北に流れ、六道溝の外皆徒渉すべく、且つ三道溝、四道溝及孔道溝の沿岸及布隆吉爾の附近は、楊、槐、茱萸の樹木生ひ茂り、耕地も亦隨て多し。布隆吉爾城は人家一百二十七戸、舊と烏爾木齊提督の駐劄せし處、今尙ほ三個の城跡を遺せり。都司衙門ありて、兵卒五十餘名を屯す、人情は質朴、一般に鴉片を嗜み、制錢は八十文を以て一百に算す。地形は平坦なる大草原に屬し、四道溝屯附近に多く野雞を見る。

十七日午後三時出發、茅牙墩マオヤイトンシヨワンタール雙塔堡等を経て行程約十三里、小宛驛シヤオエンイに到る、時に十八日午前二時とす。小宛驛は、人家約九十、小土寨を有し、兵卒十名を屯す、飲料は稍鹹味を帶ぶる井水を用ゆ。地形は布隆吉爾雙塔堡間は、平坦なる大草原にして、彼の芨々、及葦蘆茂り、路北には疏勒河西流して、近く又遠く紆餘屈曲し、其幅約一千米突、水深うして徒渉すべからずと。雙塔堡、小宛驛間は、比高二十米突、内外の大沙丘長く横りて、其の丘上更に數多の小沙丘突起せり。

十八日午後三時四十分發西行約十里、安西城アンシに達す。地形は平坦なる草野にして、疏勒河其北を流れ、小宛の大沙丘依然西に走りて安西城の南に到り、比高五六十

## 小宛の大沙丘